

一歩を踏み出す

岐阜市立藍川中学校 3年
熊澤 茉梨

体育でマット運動の倒立をしていた時のことだった。

私は運動が苦手で、うまくできなくて困っていた。しかし、私は自分から「どうやってやるといい？」と聞くことができずにいた。

そんな時に、当時のクラスメートが、私の姿を見かけて、手本を見せてくれた。そして、練習する私に「頑張れ」と声をかけてくれた。私は、半年も前になるこの出来事が今でも忘れられない。

また、こんなこともあった。

ある日の授業で、「ここ教えてほしい」と言われた。私は勉強が得意な方だ。だが、教えるのはあまり得意ではない。きっと上手く説明できていない所もあっただろう。けれども、説明が終わった後、「ありがとう」と言ってくれた。たった一つのこともかもしれない。たった一言かもしれない。けれど、私にとってはどれも嬉しくて、頑張ろうと思った。教えてよかったと思った。言葉一つ、行動一つでこんなにも力になるんだと知った。

「いじめ」。この三文字をよくニュースで耳にする。中には、「いじめによって自ら命を落とした」ということもある。なぜいじめられた被害者が亡くならないといけないのだろう。

私の2つのうれしい体験と、いじめには共通点があると思う。それは言葉だ。

たった一つの言葉で相手を心強くもするし、傷つけもする。たった一つの行動で相手を喜ばせることもあれば、苦しませることもある。

もちろん一番悪いのは加害者だ。でも、「自分は関係ない」「関わったら自分が次の標的になるかもしれない」と、周りに合わせている人も少なからずいるだろう。このように傍観者にならないことが大切だと思う。

でも、私も人目を気にしてしまう。小学校4年生ごろから、学級での話し合いで、手を挙げて発表すると、みんなにどう思われるだろうかと不安になるようになった。

きっと、傍観者になってしまう人も、根っことは同じような気持ちがあるのではないかとも思う。

でも、本当に何もすることができなかったのだろうか。きっと何かできたはずだ。

誰だって嫌いな人や考えが合わない人はいる。だからと言っていじめても良いのかと言われるとそうではない。

では「好きになればいいのか」と言われるとそれも違う。まずは、相手がどうしてそう考えたのか聞くことが大切になると思う。「この人だから」と話も聞かずに嫌うのではなく、話を聞いた後、相手のことを理解し受け入れることが何よりも大切になってくるだろう。

私自身にも苦手だとか、合わないなと感じる人はいる。でも、学習班で一緒になった時、話をしてみると、イメージとは違って、以前より抵抗感が少なくなったことがある。

このように、互いを理解しようとする気持ちが必要だと思う。

年々増えていくいじめ。心の中では、「止めたい」、「助けたい」と思っている人もいると思う。しかし、加害者に「やめなよ」と声をかけるのは難しいかもしれない。いじめを自分で止めるのには勇気がいると思う。

だけど、たった一言「おはよう」と声をかけるだけでもいい。一緒に何かするだけでもいい。その一つの言動がいじめを受けている人にとっては、嬉しいことで救いになる。

だからこそ、「あの時こうすればよかった」と後悔する前に、これ以上苦しむ人が少しでも減るように、勇気を出して一歩、踏み出してみませんか。

「今私自身にとっての一歩は何？」と聞かれた時、「明日からこれをします」という答えはまだ見つかっていない。でも、人前で自分の考えを伝えることが苦手な自分が、この大会に自分から出てみたいと思い、こうやって皆さんの前で話していることが、私にとっての一歩になるとよいと信じている。